大分県におけるモウソウタケノコ生産の現状（Ⅱ）

― A家のモウソウチク林の経営実態と日田市農協の対応 ―

九州大学農学部　青木尊重
大分県臼杵事務所　増田隆哉
大分県林業振興課　桑野　功
大分県日田事務所　髙倉芳樹

1. A家のモウソウチク林の経営実態

A家は，モウソウチク林約1.2 haを対象に，10a当り平均1 tonの収穫をあげている日田市の篤林家である。

1）昭和56年産筍の出荷先別の数量と手取り金額とその1Kg当りの平均単価を示したのが表－1である。10a当り1,085 Kgの出荷で，そのうち青果用が41%・罐詰用が59%で，10a当り74,456円の収入であった。

表－1　出荷先別の期間・数量・1Kg当り平均手取り単価・手取金額の一覧表

出荷先	期間（回数）月日～月日	数量（Kg）	1Kg当り平均手取り単価（円）	手取金額合計（円）
市農協	Ⅲ.24～Ⅲ.27（2回）	80.3	245	19,681
D青果	Ⅲ.28～Ⅲ.30（2回）	40.5	417	16,875
H青果	Ⅲ.31～Ⅳ.6（5回）	196.5	174	34,227
U青果	Ⅳ.6～Ⅴ.8（23回）	5,037.8	88	443,970
個人売	Ⅳ.22～Ⅴ.1（3回）	15.0	93	1,400
小計	Ⅲ.24～Ⅴ.8（35回）	5,370.1	96	516,153
H罐詰	Ⅳ.6～Ⅴ.8（26回）	7,592.0	49	373,597
合計	Ⅲ.24～Ⅴ.8（61回）	12,962.1	69	889,750

2）A家の母竹保残の特徴は，つぎのとおりである。

タケノコの発生の豊凶の較差をできるだけ縮めたいとして，表年と裏年の母竹用の新竹本数をできるだけ均等化させようと努めていることである。そこを明らかにするために，昭和54年から4ケ年間の立竹本数の管理の推移を一覧表に取りまとめたのが表－2である。

表－2　A家のモウソウチク林の立竹本数管理の推移一覧表（8団地の合計1,195 ha）

項目＼昭和年	54	55	56	57	合計
新竹（当初）本数	(1497)	426	579	808	3310
枯損竹本数	14	24	31	33	102
伐採竹本数	632	10	0	0	642
現在立竹本数	851	392	548	775	2566

注）ここに掲げた数値は，毎年3月1日現在を基準としたものである。なお，本表の数値は，昭和58年3月1日現在の数値である。

すなわち，母竹管理上の特徴をあげれば次のとおり。①昭和54年発生竹と昭和55年発生竹の合計は1,243本（48.5%）で，昭和56年発生竹と昭和57年発生竹の合計は1,323本（51.5%）である。②表年にあたる昭和54年と昭和56年の立竹本数は1,399本（54.5%）で，裏年にあたる昭和55年と昭和57年の立竹本数は1,167本（45.5%）で，両者間の較差は9%にすぎない。③10a当りの平均立竹本数は，昭和58年3月1日現在で，215本立となっている。勿論，各団地の特性によって，若干の変動がある。すなわち，風当りも弱く日当りも良く地味も良いスゲタ道下（30a）は181本立，上坂上（40a）は190本立と疎林仕立ててある。風当りがやや強く地味もあまり良くないホーキ北（10.5a）は281本と密林仕立てである。その中間と考えられるホーキ南（10a）は225本立，ホーキ台地（10a）は246本立，上坂下（12a）は253本立，スゲタ道上（7a）は255本立と，中庸仕立てである。

3）つぎに，昭和57年4月13日から昭和58年4月4日までの約1ケ年間に投入した肥料別の投入数量と投入金額を，一覧表に取りまとめたのが表－3である。

表－3　地区別施肥別投入量一覧表（1,195 ha）

地区別＼投入量	筍専用化成肥料（Kg）	けいかる苦土（Kg）	塩安（Kg）	けいふん（Kg）	投入金額（円）	10a当り（円）
スゲタ道上（7a）	183	160	20	600	26,590	37,986
スゲタ道上（30a）	417	240	20	1,200	56,110	18,703
上坂上（40a）	565	220		1,100	68,420	17,105
上坂下（12a）	250	160	20	500	33,610	28,008
ホーキ台（30.5a）	308	120		600	38,808	12,724
合計（1,195 ha）	1,723	900	60	4,000	223,538	18,706

以上から，10a当り平均18,706円の肥料を投入していることが明らかとなった。すなわち，筍専用化成肥料が144 Kg・けいかる苦土が75 Kg・鶏糞が335 Kgと，さらに重点地区3ケ所の49aには塩安を60 Kg投入した。なお，指標的な一事例として，スゲタ道下（30a）に対しての事例を示すと，つぎのとおりである。4月

13日から5月24日にかけての"お礼肥え"として，30aに筍専用化成肥料を170Kg・けいかる苦土を60Kg・22,060円分が投入されている。7月12日から12月13日にかけての"基肥分"として，筍専用化成肥料を137Kg・塩安を20Kg・鶏糞を1,200Kg・20,270円分を投入している。2月11日から4月4日にかけての"追肥分"として，筍専用化成肥料を139Kg・けいかる苦土を80Kg・塩安を7Kg・鶏糞を400Kg・18,703円分を投入している。その他に、10a当り除草剤（グラモキソン）を250CC，除草や中耕や伐竹等の作業に4人日分程度と筍の掘取り作業に4人日分程度の労力を投入している。

したがって，以上のようなモウソウチク林の管理の実態からみて，10a当りの推定経営費は，肥料代に18,706円・農薬代に約1,000円・除草や中耕や施肥や伐竹等の竹林管理に4人日分の24,000円：筍の掘取り作業に4人日分の24,000円・器具の損料や油代等の雑費に6,750円の合計74,456円と推定されている。1日当りの労働報酬額は6,000円で，米作並みとなっている。

2．日田市農協の年次別の筍販売実績

日田市農協扱いの年次別の加工用筍の販売数量・販売金額・1Kg当りの平均価格は表－4に，また青果用筍のそれは表－5に示すとおりである。

表－4　日田市農協扱い年次別加工向け筍販売実績
（○印は表年）

年度	販売数量	販売金額	1Kg当り平均価格
	Kg	円	円
48 ○	588,994	28,006,580	47.54
49	300.154	22.384.075	74.57
50 ○	577,035	41,271,892	71.52
51	394.803	30.853.755	78.14
52 ○	584.592	33.403.544	57.13
53	339,169	27,995,555	82.54
54 ○	686,350	57,795,205	84.21
55	384.298	37,525,270	97.65
56 ○	619,573	31,664.518	51.10
57	402.667	29,019,829	72.06
58 ○	601,763	42.917,553	71.22

表－5　日田市農協扱い年次別青果向け筍販売実績

	出荷量（Kg）	販売金額（円）	1Kg当り単価（円）
56	3,568	791,689	221.85
57	7,010	1,111,209	158.51
58	3,851	777,902	202.00

もっとも，日田市農協では，昭和57年の農畜産物の売上高は44.4億円となっている。そのうちの農産物の売上高24.1億円中，葡萄や梨等の果実類が11.6億円，米・麦等の穀類が8億円，トマトや大根やその他の蔬菜類が4.1億円，特産物としての筍が0.3億円，茶が0.1億円，椎茸が0.1億円となっている。それに，畜産物が20.3億円となっている。したがって，農畜産物の総売上高の中に占める筍の割合は0.7%にすぎない。

青果用筍は，生産者から集荷場へ，ここで選別されて北九州青果やその他の青果市場へ，日園連規格で出荷されている。籠詰用筍は，生産者から農協へ，農協で選別して日田籠詰か日田青果の加工部へ出荷されている。その結果については表－4に示すとおりである。

なお，昭和56年と昭和57年の青果用筍の1Kg当りの規格別平均単価は表－6に示すとおりである。

表－6　規格別年次別青果用筍の1Kg当り平均単価
（円）

規格＼年次	S56	S57
3L	288	168
2L	272	180.87
L	262.16	179.70
M	212.07	133.82
S	152.61	102.04
2S	101.85	87.50
出荷量	3,568Kg	7,010Kg
販売金額	791,689円	1,111,209円
1Kg当り平均価格	221.85円	158.51円